

# 北見工業大学学報

第240号 (2010年7月号)

## 目 次

創 立 5 0 周 年	式辞	2
記 念 事 業	記念式典・祝賀会	4
	記念講演会	5
入 試	平成22年度入学者選抜要項の公表	6
	平成22年度編入学試験(学力試験入試)の実施	9
	平成22年度編入学試験(推薦入試)の実施	9
研 究 助 成	平成22年度共同研究	10
	平成22年度奨学寄附金の受入状況	11
	平成22年度受託研究	12
	平成22年度造船学術研究推進機構の課題採択決定	12
	平成22年度(財)北海道河川防災研究センター 研究助成の課題採択決定	12
受 賞	機械工学科 鈴木聡一郎准教授が日本スポーツ産業学会賞を受賞	13
諸 報	メンタルヘルス講演会を開催	14
	父母懇談会(春季・北見)を開催	15
	「研究室公開」を実施	16
	研究推進センター研究状況報告会	17
	安全衛生講習会の実施	18
	平成21年度教育優秀者表彰式を実施	19
	オープンキャンパスの実施	20
学 内 日 誌	6・7月	21

## 北見工業大学創立 50 周年記念式典式辞

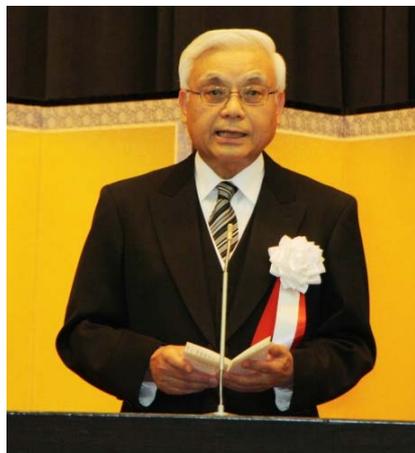
学長 鮎田 耕一

本日は、文部科学事務次官 坂田東一様をはじめ文部科学省の皆様、北海道大学 佐伯浩総長をはじめ大学学長、工業高等専門学校長の皆様、また、日頃からご理解、ご尽力いただいております国会議員の皆様、加えて自治体及び地域を代表する多くの方々をご来賓としてお迎えし、本学の名誉教授、教職員 OB、同窓生の皆様のご列席を賜り、ここに北見工業大学創立 50 周年記念式典を挙行できますことを、心から厚く御礼申し上げます。

本学は昭和 35 年に北見工業短期大学として創設され、昭和 41 年に四年制の北見工業大学に昇格し、昭和 59 年に大学院工学研究科修士課程が、平成 9 年には博士後期課程が設置され、本年度からは、博士後期課程を新たに医療工学専攻を含め改組・再編し、学士課程 6 学科、博士前期課程 6 専攻、博士後期課程 3 専攻と充実してまいりました。

50 年前、入学定員 80 人でスタートした本学は、現在その教育・研究環境が飛躍的に向上し、日本で最も北に位置する国立大学でありながら全国 47 都道府県すべてから学生が集まり、留学生を含めて 2,000 人余りの学生が学んでおり、15,000 人の規模になった卒業生は、国内外に展開し各界で活躍しております。

平成 16 年の国立大学法人化にあたり本学はその第一期中期目標・中期計画において、教育・研究・地域貢献・国際化に関する四つの基本目標を掲げ、その結果として、個々の学生の特性を大事にした学生参加型の実践的な教育重視の姿勢や、



本学の立地条件を活かした寒冷地の社会基盤技術、エネルギー・環境、バイオ・材料、情報科学等を柱とした工学研究の推進と、それらに基づく人材の養成、及び地域発展を目指した産学官連携等の様々な活動は、関係方面から評価されているところでございます。

これらの成果は、本学が本来担うべき使命の反映そのものであり、引き続き第二期中期目標・中期計画の基本目標にすえながら、大学全体としてより一層の個性化と高度化に努めていきたいと考えております。

教育面では、学士課程においては、確実な工学基礎能力を持った技術者を養成し、大学院博士前期課程では実践的教育を充実させて企業等の開発現場で役立つ専門技術者を育て、博士後期課程では高度専門技術者や研究者の育成に努めていく所存です。

研究面では「自然と調和するテクノロジーの発展」と「寒冷地に根ざした研究」をキーワードとしながら、特色ある研究の推進を継続していきたいと考えており

ます。

さらに、地域社会の発展と社会基盤の充実のために、教育・研究・人材育成を通じて小中高生に対する科学教育の支援、技術者に対するブラッシュアップ教育、及び一般社会人へのリカレント教育の推進や、自治体と連帯して地域の政策決定、あるいは環境などの社会問題の解決にも積極的に関与し、夢と希望のある地域づくりに貢献してまいります。

このたび本学が創立50周年を迎えることができましたのは、地域社会の皆様や同窓生からの温かいご支援と歴任教職員

の努力、加えて文部科学省のご指導のおかげであります。この大きな節目を機に、これからも国立大学法人としての存在意義を自覚し、皆様からの期待に応え「北天に光を放つ」北見工業大学を目指して役職員一同、気持ちを新たに、全力を尽してまいります。

本日ご臨席を賜りましたご来賓の方々をはじめ、ご列席の皆様方に重ねて感謝を申し上げますとともに、引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。私の式辞とさせていただきます。



## 創立 50 周年記念式典・祝賀会

(総務課)

創立 50 周年記念式典が、6 月 11 日(金)15 時から講堂において開催され、文部科学省、国内外の大学、地元自治体、名誉教授、同窓生、教職員等、約 250 人が出席しました。

開式に先立ち、北見交響吹奏楽団木管アンサンブルの演奏が行われ、鮎田学長の式辞に引き続き、坂田文部科学事務次官、佐伯北海道大学総長、小谷北見市長、永田北見商工会議所会頭からも祝辞が述べられ、最後に学生合唱部による「北見工業大学学生歌」が披露されました。

式典後には、創立 50 周年を祝してグライダーが紅白の煙をたなびかせながらキャンパス上空を旋回し、出席者は空を見上げ拍手を送りました。

祝賀会は、記念式典に引き続き会場を市内のホテル黒部に移して開催されました。鮎田学長の挨拶の後、武部衆議院議員、佐藤室蘭工業大学長、富田同窓会長から祝辞が述べられました。続いて、来賓等による鏡開きを行った後、懇談に移り、50 年の歴史を振り返りました。



↑ 式典の様子



↑ 坂田文部科学省事務次官の祝辞



← 祝賀会での鏡開き

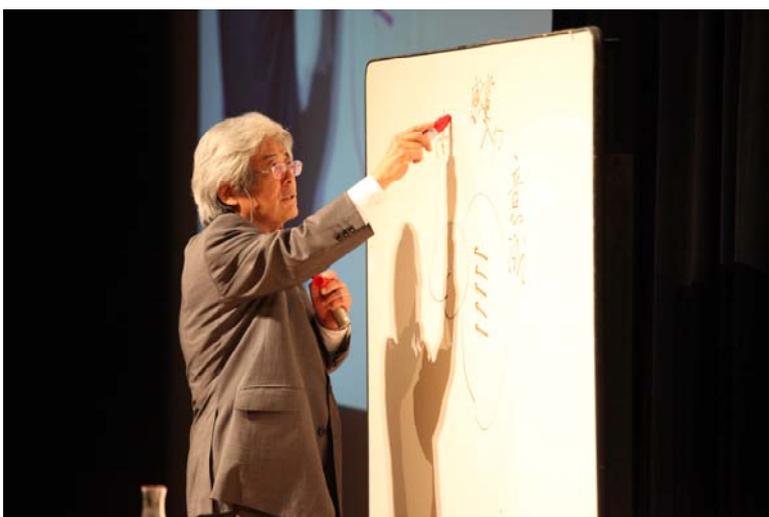
## 記念講演会

(研究協力課)

6月20日(日)、解剖学者であり、東京大学名誉教授である養老孟司先生をお招きし、創立50周年記念講演会を開催しました。

この講演会の広報は5月に入ってから始めましたが、わずか3週間程度で定員である1,300人を超える申込みに達しました。そのため、300人以上の方々にお断りしなければならぬという人気ぶりでした。北見市の人口は13万人ですから、100人に1人の方がこの講演会にお集まりいただいた

ことになります。演題は「脳の中に住む人間—ヒトを見る・自分を知る—」。「脳」と「身体」、「都市」と「地方」、「大人」と「子供」、「人間」と「動物」、「秩序」と「無秩序」など様々な対比を交えながら、私たちが普段考えもしない切り口で、鋭くかつユーモアたっぷりにご講演くださり、会場からは大きな笑い声が幾度となく湧き起こりました。



## = 入試 =

### 平成 23 年度入学者選抜要項の公表

(入 試 課)

平成 23 年度入学者選抜要項が 7 月に公表されました。概要は以下のとおりです。

#### ○入学定員(募集人員)

系・学科名		入学定員	募集人員		
			前期日程	後期日程	推薦入試
機 械 ・ 社 会 環 境 系	機 械 工 学 科	160人	70人	50人	40人
	社会環境工学科				
情報電気エレクトロニクス系	電気電子工学科	140人	63人	42人	35人
	情報システム工学科				
バイオ環境・マテリアル系	バイオ環境化学科	110人	46人	36人	28人
	マテリアル工学科				
工学部合計		410人	179人	128人	103人

※ 入学後1年間は各系に所属し、2年次進級時に本人の志望及び学業成績により系内の学科に移行します。

注① 後期日程の募集人員には、各系とも帰国子女特別入試の募集人員若干人を含みます。

② 推薦入試の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を後期日程の募集人員に加えて募集します。

#### ○選抜方法等

##### 一般入試

	前期日程	後期日程
選抜方法	大学入試センター試験の成績及び出身学校長から提出された調査書の内容を総合して行う。	大学入試センター試験の成績、本学が行う個別学力検査の成績及び出身学校長から提出された調査書の内容を総合して行う。
出願期間	平成 23 年 1 月 24 日(月)から平成 23 年 2 月 2 日(水)まで(必着)	
試 験 日	個別試験は課さない	平成 23 年 3 月 12 日(土)
合格発表	平成 23 年 3 月 7 日(月)	平成 23 年 3 月 20 日(日)

推薦入試

選抜方法	学校長より推薦された者について、調査書、推薦書の内容及び小論文、面接の結果を総合して行う。
出願期間	平成 22 年 11 月 1 日(月)～平成 22 年 11 月 8 日(月)
出願要件	高等学校又は中等教育学校を平成 23 年 3 月卒業見込みの者で、次の二つの条件を満たし、かつ志望する系への能力・適性等について学校長が責任を持って推薦できるもの ①高等学校又は中等教育学校における学習成績・人物ともに優れ、特に数学、理科の成績が優秀な者 ②志望する系の分野に強い勉学意識と関心を持ち、大学での学習において優れた成果が期待できる者
選抜期日	平成 22 年 12 月 3 日(金) (小論文・面接)
合格発表	平成 22 年 12 月 15 日(水)

帰国子女特別入試

選抜方法	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、成績証明書等の成績、小論文及び面接の結果を総合して行う。
出願要件	略
出願期間	平成 22 年 11 月 1 日(月)～平成 22 年 11 月 8 日(月)
選抜期日	平成 22 年 12 月 3 日(金) (小論文・面接)
合格発表	平成 22 年 12 月 15 日(水)

○試験教科・科目・配点

		教科	科目	配点	合計
前期日程	センター試験 (5教科7科目)	国語	国語1科目	100	1000
		地歴・公民	地理歴史又は公民から1科目	50	
		数学	数Ⅰ, 数Ⅰ・数Aから1科目	300	
			数Ⅱ・数B, 工業数理基礎から1科目 注①		
		理科	理科から2科目	300	
	外国語	外国語から1科目 注②	250		
個別学力検査	課さない				
後期日程	センター試験 (5教科7科目)	国語	前期日程と同じ	50	1000
		地歴・公民		50	
		数学		100	
		理科		100	
		外国語		200	
	個別学力検査	数学	数Ⅰ, 数Ⅱ, 数Ⅲ, 数A, 数B, 数C	300	
		理科	物Ⅰ・物Ⅱ, 化Ⅰ・化Ⅱから1科目	200	

注①:工業数理基礎を選択できる者は当該科目の履修者等

注②:外国語のうち、英語にはリスニングを含む

## 平成 23 年度編入学試験の実施

(入 試 課)

平成 22 年度編入学試験の推薦入試、学力試験入試が実施され、各学科別の合格者数等は次表のとおりとなりました。

なお、編入学試験の社会人特別入試については、志願者がいなかったため実施されませんでした。

学 科 名	推薦入試				学力試験入試			
	募集 人員	志願者	受験者	合格者	募集 人員	志願者	受験者	合格者
機 械 工 学 科	10 人	1	1	1	若 干 人	1	1	0
社 会 環 境 工 学 科		3	3	3		2	2	0
電 気 電 子 工 学 科		0	0	0		1	1	0
情 報 シ ス テ ム 工 学 科		0	0	0		2	2	1
バ イ オ 環 境 化 学 科		0	0	0		4	3	1
マ テ リ ア ル 工 学 科		2	2	2		5	5	2
合 計		6	6	6		15	14	4



= 研究助成 =

平成22年度共同研究の受入状況

平成22年7月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等
オホーツク地域環境 保全研究推進センター 社会環境工学科	教授	鈴木 輝之	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系環境保全対策協議会
バイオ環境化学科	教授	堀内 淳一	下水汚泥の堆肥化に関する研究	北見市企業局
マテリアル工学科	准教授	南 尚嗣	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	北見市企業局
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	北見市企業局
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	北見市企業局
バイオ環境化学科	助教	多田 清志	食用きのこ生産工程における副産物の高次利用を目指した物質変換プロセスの開発	【4者】(地独)北海道立総合研究機構、北海道大学、(株)新進
バイオ環境化学科	教授	堀内 淳一	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	北見市企業局
マテリアル工学科	教授	青木 清	液体急冷Nb-TiNi系複相水素透過合金箔を用いた水素精製システムの開発	【3者】三菱マテリアル(株)加工事業カンパニー高機能製品事業部、岩谷瓦斯(株)
電気電子工学科	教授	谷本 洋	超低電圧動作アナログ回路の研究	ルネサスエレクトロニクス(株)
社会環境工学科	教授	山下 聡	連続繊維補強土工の力学特性の把握	日特建設(株)
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	Liイオン二次電池用導電材料の開発	戸田工業株式会社
電気電子工学科	准教授	武山 真弓	Cu多層配線へ適用する極薄バリア膜の信頼性	芝浦工業大学
機械工学科	准教授	松村 昌典	航空用エンジンのファンブレードへの着氷量計測技術の研究	(株)IHI
機械工学科	准教授	山田 貴延	オホーツク・オフライン熱供給システムの実現に関する調査研究	オホーツク新エネルギー開発推進機構
機械工学科	教授	佐々木 正史	温泉廃熱高度利用(ハイブリッド植物工場)実証研究	オホーツク新エネルギー開発推進機構
社会環境工学科	教授	大島 俊之	構造物の維持管理と補修・補強効果に関する研究	(有)アミューズ
電気電子工学科	准教授	菅原 宣義	送電設備の落氷対策技術に関する研究(その6)	東京電力(株) 技術開発研究所
社会環境工学科	教授	鈴木 輝之	黒硬、スラグ、石炭灰の混合による地盤改良試験	太平洋興発(株)釧路支店
社会環境工学科	助教	中村 大	バイオマス資源を有効活用した道路法面緑化工法の検討	(株)構研エンジニアリング
電気電子工学科	准教授	菅原 宣義	送電線の着氷低減技術に関する調査研究	中部電力(株) 電力技術研究所
情報システム工学科	教授	三浦 則明	新しい上空波面推定法の開発と太陽観測による検証	大学共同利用機関法人自然科学研究機構
機械工学科	准教授	松村 昌典	固体表面のぬれ性と流体摩擦抵抗に関する研究	(社)北見工業技術センター運営協会
マテリアル工学科	准教授	伊藤 英信	非晶質皮膜の開発と評価	(社)北見工業技術センター運営協会
バイオ環境化学科	教授	堀内 淳一	地域資源の高付加価値化を図る有用微生物の調査研究	北見市産学官連携推進協議会

平成22年度累計47件

## 平成22年度奨学寄附金受入状況

平成22年7月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
					円
学長		鮎田 耕一	創立50周年記念事業の助成	北見工業大学同窓会	10,000,000
社会環境工学科	助教	井上 真澄	井上真澄の研究助成のため	立命館大学 総合理工学研究機構	1,258,531
社会環境工学科	准教授	高橋 清	工学研究のため	日本工営(株) 札幌支店	315,000
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	橋梁モニタリング技術の開発研究のため	(株)フジエンジニアリング	1,000,000
社会環境工学科	助教	井上 真澄	コンクリートの凍害とアルカリ骨材反応との複合劣化に関する資料収集	(株)フジエンジニアリング	500,000
社会環境工学科	教授	山下 聡	工学研究のため	(株)豊水設計	100,000
社会環境工学科	准教授	早川 博	工学研究のため	(株)豊水設計	100,000
未利用エネルギー研究センター	教授	庄子 仁	工学研究のため	(株)豊水設計	100,000
機械工学科	准教授	山田 貴延	24時間換気システムに関する工学研究助成のため	ローヤル電機(株)	500,000
社会環境工学科	准教授	後藤 隆司	工学研究のため	(有)アミューズ	100,000
機械工学科	教授	大橋 鉄也	大橋教授の計算工学による組織と特性予測技術に関する研究助成	(社)日本鉄鋼協会	200,000
社会環境工学科	准教授	早川 博	GISを結合した複合流域モデルにおける一般化貯留関数法の統合化	(財)北海道河川防災研究センター	1,790,000
電気電子工学科	准教授	菅原 宣義	配電用機材の塩雪害および急速汚損に関する研究のため	北海道電力(株) 企画本部	1,000,000
電気電子工学科	教授	小原 伸哉	「気象予報情報を用いた運用最適化を伴う自然エネルギー複合マイクログリッドによる船舶用エネルギー供給システムの開発」に関する研究助成のため	造船学術研究推進機構	1,400,000
機械工学科	助教	高井 和紀	住宅の躯体掃気に関する研究のため	エバー(株)	60,000
学長		鮎田 耕一	学生に対する支援他	北見工業大学後援会	1,963,100
社会環境工学科	教授	鈴木 輝之	コンクリートV型トラフ破損状況調査	(株)旭ダンケ 道東支店	150,000
地域共同研究センター長 (社会環境工学科)	教授	川村 彰	オホーツク地域の行政・民間機関との共同研究・研究交流及び技術指導、教育、開発等を推進するため	北見工業大学地域共同研究センター推進協議会	1,650,000
学長		鮎田 耕一	学生に対する支援(語学研修プログラム参加旅費助成)	北見工業大学後援会	300,000

平成22年度累計 30件

## 平成22年度受託研究の受入状況

平成22年7月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費
					円
バイオ環境化学科	准教授	三浦 宏一	「函館マリンバイオクラスター ～UMI (Universal Marine Industry)のグリーン・イノベーション～」	財団法人函館地域産業振興財団	650,000
情報システム工学科	准教授	早川 吉彦	高齢者の健康寿命延長のための身体運動機能の向上に着目した咬合の安定と顎運動の解析	独立行政法人日本学術振興会	2,500,000
マテリアル工学科	准教授	南 尚嗣	平成21年度GEMS/Waterベースラインモニタリング(湖水の精密分析)	独立行政法人国立環境研究所	999,000
マテリアル工学科	准教授	南 尚嗣	平成22年度摩周湖の透明度の低下原因解明と総合的環境保全に関する研究	独立行政法人国立環境研究所	647,000

平成22年度累計 7件

## 平成22年度 造船学術研究推進機構課題採択決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
電気電子工学科	教授	小原 伸哉	気象予測情報を用いた運用最適化を伴う自然エネルギー複合マイクログリッドによる船舶用エネルギー供給システムの開発	1,400千円

## 平成22年度 (財)北海道河川防災研究センター研究助成の課題採択決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
社会環境工学科	准教授	早川 博	GISを結合した複合流域モデルにおける一般化貯留関数法の総合化	1,790千円

## = 受賞 =

### 機械工学科、鈴木聡一郎准教授が平成 21 年度 日本スポーツ産業学会賞を受賞

(機械工学科)

このたび、本学機械工学科准教授の鈴木聡一郎先生が、日本スポーツ産業学会より平成 21 年度学会賞を受賞されました。

日本スポーツ産業学会は、スポーツ産業が国民の人間性の開放、豊かな生活の発展、および社会福祉の向上に貢献することを求めて、スポーツ産業をめぐる課題を科学的に明らかにし、課題解決へむけた知見を得る活動をすすめていくために設立された学会です。スポーツ産業という極めて実践的な事象を研究対象とすることから、産業界、官界、学界はもとより、スポーツ界、スポーツ消費者にも参加を呼びかけ、各界の共同により運営を進めていく新しいタイプの学会として活動が進められております。内部には7つの分科会があり、鈴木准教授が活動するスポーツ工学専門分科会もそのひとつです。

また学会賞は、学会が発刊する論文誌である「スポーツ産業学研究」の中から、優れた成果が認められた論文に贈られる賞であり、今回は鈴木准教授の「骨格に基づくスキーブーツ設計に関する基礎的検討」が選出されました。

この研究は、スキー産業界ならびに積雪寒冷地域の経済活性化を目的として、スキーブームの再興のため、日本人アルペンスキー選手が世界的に活躍するためのスキーブーツ設計を検討したものです。

この研究では、選手の滑降タイムとターン中の下肢の内傾角度との間に強い相関があることを示したうえで、日本人と欧米人の骨格の違いに着目し、数値解析やモーションキャプチャなどの工学的手法を用いて、現在主流のヨーロッパ製のスキーブーツでは日本人選手が不利になることを明らかにしました。さらに、スキー競技で日本人が欧米人と対等に戦うためには、ターン時の下肢の内傾角速度を向上させることが重要であることを示し、内傾角速度の向上とともに、選手—スキー系の最大傾斜線方向の運動エネルギーを効率良く向上させることが可能な新たなアップパーシェル設計を明らかにしています。スキーブーツに関する工学研究は国内外においてほとんど例がなく、新たな発想に基づく先駆的な研究成果が認められ、受賞されたものです。



← 表彰式にて学会長滝鼻卓雄氏（読売ジャイアンツ代表取締役オーナー）とともに



↑ 日本スポーツ産業学会賞賞状

## メンタルヘルス講演会を開催

(学生支援課)

6月8日(火)及び10日(木)の計2回、C122 講義室において、学部1年次学生を対象とした「メンタルヘルス講演会」を開催しました。

講演では、「メンタルヘルス講座～充実した学生生活に向けて～」と題して、本学学生相談室カウンセラー 中野武房氏に講演いただき、大学生のストレスと陥りやすい問題行動や症状についての説明がありました。また、自身のストレスチェックやストレスのコントロール方法なども実践し、最後に、悩みが生じた際の学内相談窓口について説明があり

ました。

参加学生からは、「自分の精神状態がどのような状況に置かれているのか理解できた」「抱えているストレスの対処法がわかった」との声が寄せられました。

近年、学生が修学・進路・人間関係等、様々な心の悩みを抱えた際に、周囲に相談できず、問題が深刻化する事例が増えてきていることから、今後もこのような機会を持ち、学生がストレスに関する理解を深め、問題が深刻化しないよう、そして充実した学生生活を送れるよう取り組んでいきたい考えです。



← 講師の中野先生



講演会の様子 →

## 父母懇談会(春季・北見)を開催

(学生支援課)

「父母懇談会(春季)」を、6月19日(土)に講堂を説明会場として、外国人留学生及び大学院博士後期課程を除く全学生の父母を対象に、例年恒例となっている大学祭の開催に併せて実施しました。

当日は、全国から157組211人の父母が参加し、まず始めに全体説明会において、鮎田学長から挨拶があった後、田牧副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がありました。また、学生後援会々長からは、

当会の活動状況が報告されるなど、様々な情報が父母に提供されました。

その後、各学科・専攻に分かれた個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは修学状況、就職等について質問が出され熱心なやりとりが交わされました。

また、会場前においては、大学認定商品の菓子「雪まりも」の他、大学関連グッズの販売を行い、参加した父母からは大好評を得ました。



全体説明会の様子

## 「研究室公開」を実施

(企画広報課)

6月19日(土)～20日(日)に開催した第48回大学祭において、「研究室公開」を実施しました。普段、学外の方が目にする機会の少ない本学の研究内容をやさしく楽しく紹介しました。2日間で、お子様からお年寄りまでたくさんの方が来場してくださいました。



↑ ロボット操縦体験

公開した研究室のテーマ
ロボコンのデモンストレーションおよび操縦体験
QVICで超立体視
仮想空間で力の伝わり方をドミノ倒しで経験しよう!
白滝黒曜石ジオパーク構想における生田原地域のジオサイト候補—空中写真の立体視や、黒曜石、金鉱石、珪化木などの観察—
情報伝送 —光・電波を伝えるしくみ—
光学ワンダーランド
言葉とイメージのコンピュータ・サイエンス
甘〜い研究 —糖を見分ける賢い分子たち—
亀の甲をつなげると —機能性有機分子のつくり方—
クリーンなエネルギーを学んで、化学で遊ぼう!!



↑ 仮想空間でドミノ倒し



↑ 黒曜石、金鉱石、珪化木などの観察

## 研究推進センター 研究状況報告会について

(研究協力課)

6月24日(木)、25日(金)の両日、「研究推進センター研究状況報告会」を開催しました。

研究推進センターは、平成17年4月に14のセンターで発足し、複合融合的な研究領域を形成し多様な研究活動を行うと同時に、競争的資金獲得に向けても機能してきました。設置から3年経過した平成20年度には、さらなる効率性・発展性そして新規性を考慮し、新たに11の研究推進センターに再編成しました。

現在、研究推進センターは、「エネルギー・

環境部門」、「バイオ・材料科学部門」、「情報科学部門」、「社会基盤部門」の4研究推進分野の下に、学科の壁を乗り越えて柔軟な研究者交流を行う研究組織となっています。今回の研究状況報告会は、普段は見えづらい研究推進センターの研究状況を報告することでの活性化を目的として開催しました。

報告会には、学生・教職員ばかりでなく、学外からの参加もあり、今後の実用化の見込み等の質疑応答も交わされました。



← スライドを用いた説明を行う吉田教授



会場の様子 →

## 春季安全衛生講習会の開催

(施設課)

6月25日(金)、B111講義室において春季安全衛生講習会が開催され、約50人の学生及び教職員が参加しました。

講習会の開会にあたり、高橋副学長から国立大学法人化により安全に関して法の規制を受けることや、教職員のみならず学生も実験やTA・RAとして化学薬品等を扱う機会があるため注意を払うように、との挨拶がありました。

続いてバイオ環境化学科 伊藤講師より労働安全衛生の歴史的淵源を解説後、アルコールを例に挙げて飲酒というありふれた行動でもリスクは発生し、それには個人差があることを説明しました。

また、実際本学で実施されている作業環境

測定にも触れ、具体的な測定方法等の解説がありました。

最後に技術部橋本係長から平成21年度の産業医及び衛生管理者の巡視結果報告がありました。4年前との数値では各研究室等における指摘件数が著しく減少している一方、蛍光灯の不良や床を這っているコード等の指摘がまだ若干ある事、全国的に見て年齢にもよるが平らなところでも転倒して怪我もしくは命を落とすケースがあるという事など説明があり、参加者へ今年度分も巡視等の協力を呼び掛け、講習会は終了となりました。



↑ 説明を行う伊藤講師



↑ 説明に聞き入る参加者

## 「平成 21 年度教育優秀者賞」表彰式を実施

(学生支援課)

6月30日(水)、平成21年度教育優秀者賞の表彰式を実施しました。

「ベストティーチング賞」は平成13年に創設されたもので、今回は平成21年度に実施した学生による授業評価の結果、授業に対する準備、熱意、指導等が顕著であるとされた教員9人(各学科8人、共通講座1人)が受賞し、このうち2人は3度目、1人は2度目の受賞となりました。

なお、授業形態や教材などの工夫で教育改善が顕著であった教員・グループを表彰する「エクセレントプログラム賞」は、1グループが表彰されました。

表彰式では、学長から一人ひとりに盾が授与された後、学長から受賞者に対しお祝いの言葉がありました。

受賞された方々は、以下のとおりです。

### 「ベストティーチング賞」(敬称略)

機械工学科	助教	高井和紀
社会環境工学科	教授	中山恵介
電気電子工学科	教授	野矢厚・平山浩
		谷本洋・
	准教授	武山真弓・熊耳浩
		辻寧英
情報システム工学科	准教授	原田建治
バイオ環境化学科	助教	多田清志
マテリアル工学科	准教授	南尚嗣
共通講座	准教授	鳴島史之

### 「エクセレントプログラム賞」(敬称略)

社会環境工学科 宮森保紀・山崎智之



← 学長を中央に「平成21年度ベストティーチング賞」受賞者と「平成21年度エクセレントプログラム賞」受賞者

## オープンキャンパスの実施

(入 試 課)

7月31日(土)に大学進学を希望する高校生等を対象としたオープンキャンパスが開催され、道内外から高等学校教諭、父母等を含む337人が参加しました。前日までの不安定な天候が嘘のように晴天に恵まれ、オホーツクブルーの青空の下、参加者は熱心に体験学習等に取り組んでいました。

当日はまず全体説明で鮎田学長の挨拶に引き続き、田牧副学長による大学案内、3系列紹介のリレートークが実施され、その後は各学科において体験学習第1部が行われました。

昼食は大学生協の協力により、学食体験として参加者全員に在学生に人気のメニューが提供されました。また昼食時間に平行して実施したキャンパスツアーでは、参加者全員に大学構内を見学してもらうことができました。

午後からは、体験学習の第2部が行われた



↑ 学長挨拶

後、コミュニケーション・アトリウムにて各学科教員・在学生等による個別相談を実施して終了しました。

参加者からは、「入試に向け参考になった」「大学を知ることができてよかった」「面白かった」等の声が多く聞かれました。



↑ 体験学習



↑ 学食体験



← 個別説明

## = 日誌 =

(企画広報課)

### 6 月

- 4 日 経営協議会、役員会、北苑祭り(～6日)
- 8 日 メンタルヘルス講演会
- 9 日 平成23年度編入学試験(推薦試験)
- 10 日 教務委員会、メンタルヘルス講演会
- 11 日 創立50周年記念式典、祝賀会
- 15 日 入学者選抜委員会
- 16 日 教授会、研究科委員会、平成23年度編入学試験(推薦入試)合格発表
- 19 日 父母懇談会、大学祭(「研究室公開」)  
(～20日)、進学相談会(八戸)
- 20 日 北見工業大学創立50周年記念講演会、進学相談会(盛岡)
- 23 日 役員会、教育研究評議会、奨学奨励賞表彰式
- 24 日 研究推進センター 研究状況報告会  
(～25日)
- 30 日 教育優秀者賞表彰式、平成23年度編入学試験(学力試験入試)

### 7 月

- 2 日 北海道地域大学等地域財産部門連絡会議
- 5 日 役員会
- 6 日 入学者選抜委員会
- 7 日 教授会、平成23年度編入学試験(学力試験入試)合格発表
- 12 日 役員会
- 13 日 教務委員会
- 14 日 教育研究評議会
- 25 日 北海道地区大学体育大会(剣道)
- 26 日 役員会
- 27 日 交通安全講習会
- 31 日 オープンキャンパス

